

# 湯河原ロータリークラブ



## WEEKLY REPORT

心の中を見つめよう  
博愛を広げるために

第 2412回 例会

平成23年8月19日(金)

天候 曇り

合唱 我等の生業

四つのテスト

会 長 伊藤 伸之

幹 事 望月 博文

事務所 神奈川県足柄下郡湯河原町土肥 1-14-25

中川方 TEL/FAX 0465(62)3056

例会場 静岡県熱海市泉 107/TEL0465(63)3721

ニューウェルシティ湯河原

例会日 毎週金曜日 12:30~13:30

### 会長挨拶

非常に厳しい暑さも今日は一服と思う気温になりましたが、会員の皆さまにおかれましてはいかがでしょうか？

先週のような規定休会があると本当に助かります。8月10日に会長幹事会がありました。主な点は東日本震災復興基金であります。8月10日現在99、300万円の基金があつまりました。

その使い道については国内34地区の2/3の賛成がないとだめだとのことでした。

前回お話しました1人100ドルの寄付について第9グループでは次回に見解を出すことに決まりました。

理由は100ドル寄付することに反対はしないがその根拠、目的は何かという事です。

以上が会長幹事会での要点です。

クラブのことは8月は会員増強月間です。

今月中に情報集会が開かれ増強に結びつく成果を願っています。

まだまだ蒸し暑い日が続きますから体調には十分ご注意ください。夏を乗り切ってください。

### 幹事報告

ガバナー

#### 1. 第2780地区2011~12年度地区大会

10月15日(土)

会長幹事会 12:30~14:20

地区指導者育成セミナー 14:00~17:30

10月16日(日)

本会議 12:30~18:40

懇親会 19:00~20:00

(ホストクラブ 横須賀北)

#### 2. 米山奨学セミナー開催

9月12日(月) 15:00~17:00

藤沢産業センター 8F (♫切9月2日)

米山記念奨学会

#### 1. ハイライトよねやま137

### 本日のお客様

山崎源三君 東京西南RC

斯 琴 様 米山奨学生

### スマイルBOX

なし

### お知らせ

山本明峰君

会員増強月間に伴い8月31日(水)6時よりドミ  
ングにて情報集会を開催いたしますので多数の  
ご出席をお願いいたします。

出席報告	ゲスト1名 ビジター 1名		
	会員 26名	欠席 4(3)名	出席率 95.65%
	前回の修正出席率 91.30%	前々回の修正出席率 95.45%	

## 卓 話

稲葉 隆君

「昭和と戦争」のビデオを観賞いたします。

昭和6年12月、第二次若槻礼次郎内閣が閣内不統一で倒れ、政友会の犬養毅が、首相に任命されました。その頃チチハルを占領していた関東軍は、錦州攻撃を開始して、山海関を越える勢いを示していた。ここを越えれば中国本土である。

ところが昭和7年に入ると、戦火は上海に飛び火した。上海事変は、こうした一連の動きの中で満州に注目している世界の目を、なんとか国際都市・上海にそらそうとする日本軍の陰謀であった。

その頃中国側の提訴によって、国際連盟は、満州事変調査のため、イギリスのリットン卿を団長とする調査団を結成して満州に入ることになっていた。板垣征四郎は本庄軍司令官らと計って、この調査団の満州入りの前に満州国建国という既成事実をつくってしまおうと考えた。上海事変の陰で建国を急いでいた板垣らは、奉天、吉林、黒竜江の東三省のトップらを集め、新国家建設会議を開き、張系景恵黒竜江省長を委員長とする東北行政委員会を招集して独立宣言をさせたのは、昭和7年2月17日のことであった。

新国家の形態について協議した関東軍は、当初は直接占領方式構想していたが、国際世論の動向を計って2月24日、保護国創設方式に転換した。

民本政治を政体として元首は執政、国号は満州国、国旗は漢・満・蒙・日・朝の五族協和を表す五色旗、年号は「易経」の天下大同から大同と決め、25日に東北行政委員会で認めさせ、3月1日、「満州国」の建国が宣言された。リットン調査団が満州入りする直前のことだった。リットン報告書が日本と中国の両国に通達されたのは10月1日のことで、その内容をめぐり日本は世界と対立し、8年3月に国際連盟を脱退した。満州国は「日満議定書」によって、従来からある日本の権益のすべてを承認するほか、国防も関東軍にゆだねたため、名目は独立国でも実態は関東軍の支配下にあり、満州国軍は日本の補助部隊に過ぎなかった。

関東軍司令部は、事実上、満州における軍・政の全権を握っていた。当時の日本は世界恐慌のどん底にあえいでいた。特に東北地帯は冷害によって米作が大きな減収となり、娘の身売り騒ぎまで起きていた。

生活の窮迫農民ばかりでなく、全国の労働者や小さな自営業者にまでもおよんだ。

「大学は出てけれど」の流行語が生まれた。

こうした中、多くの人が一旗あげようと満州に出かけていった。

そして満州の治安維持と対ソ連のための第一線の兵の扶植を目的とした在郷軍人による「武装移民」を北満の国境地帯に定着させる計画を立てた。この移民計画は閣議でも了承され昭和7年10月416人の在郷軍人が北寒の地へ渡った。昭和11年になると20ヶ年で100万戸の移民計画を立てた。徴兵前の数え19歳までの青少年を「満蒙開拓青少年義勇軍」と名付け、彼らに農業の基本を教育し満州各地に入植させた。しかしながら実質は、彼らを国防の第一線に立たせるものであり、送り先が農業に適さない原野だったりして、トラブルも絶えなかった。

また戦前の内閣の機関の一つで主に朝鮮・台湾などの植民地関係を取り扱った省である「開拓省」は、大陸政策の一環として、全国に向けて「大陸の花嫁」の募集を行い昭和14年4月に250余人の第一陣が満州に渡り、現地で待つ青年たちと共に開拓に従事したのである。